

懐かしい旅その3 “桃源郷”シャングリラ(香格里拉)への旅 —雲南最奥の中甸(チュウデン)、徳欣の大自然を求めて—

渡邊 美穂子 S40 文

第3回目の旅では2002年8月17日から25日まで20名の仲間で学生時代から温めてきたシャングリラへの旅が遂に実現しました!

シャングリラは英国の作家ジェームス・ヒルトンの”失われた地平線”に描かれている桃源郷のことで、その後、多くの人々が探し求めていた場所です。このシャングリラが2002年5月に、雲南省最奥の中甸県であるとの結論に達し、県名をシャングリラ(香格里拉)と改称しました。その3か月後に訪れたことになります。



背景はシャングリラから5Kmにある松賛林寺
雲南省最大のチベット仏教寺院



松賛林寺全景

ラサにあるポタラ宮を模していることから「小ポタラ宮」といわれる。山沿いに立てられ、外観は古城のようで、「チベット族の芸術博物館」とも呼ばれる。

<シャングリラの街、近郊の風景>



シャングリラは穏やかで、時間がゆっくり流れる静かな街でした

麗江からシャングリラ(3300m)、さらに北へ180km入った得欽(3400m)への道は4500mの峠もあり、切り立った山々、険しい峡谷に沿ったぬかるみ道や凸凹道を小型バスで移動

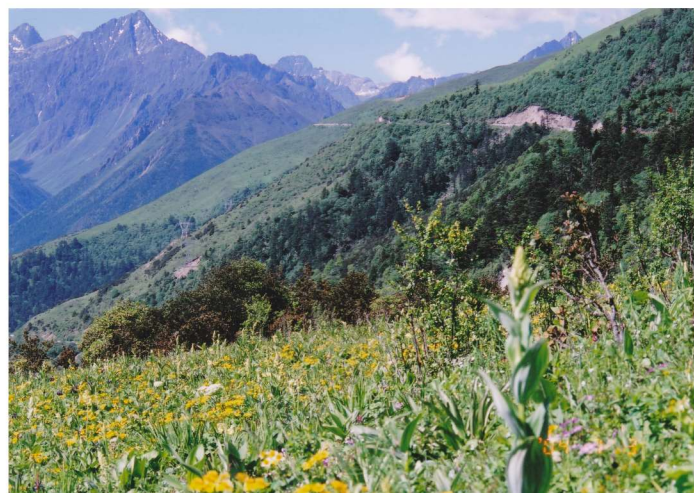


険しい山道が続く



4500mの峠から眺めた白茫雪山

移動の途中で絶景や咲き誇る高山植物があれば、バスから降りて鑑賞、散策

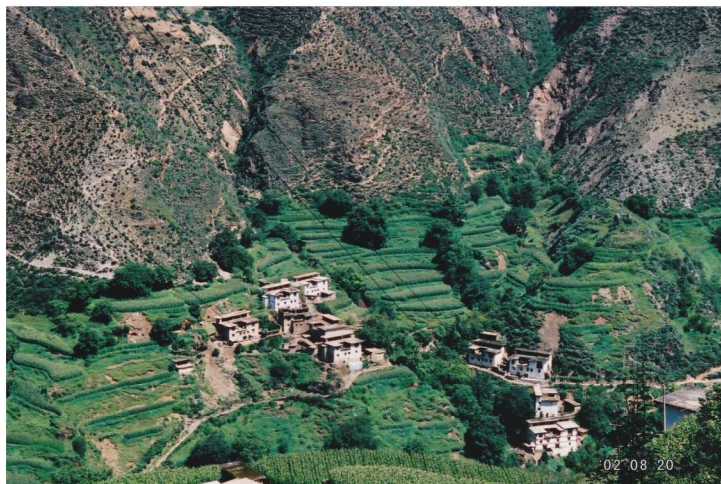


この地では、草を食む牛たちも何かノンビリ、おっとりしていて、桃源郷に生きる幸福をエンジョイしているように感じた



白水台(2800m シャングリラから105km)
石灰を含む透明な湧水が長い年月をかけて
白く光る棚田のような段々の無数の池を作った
ナシ族の信仰するトンパ(東巴)教の聖地

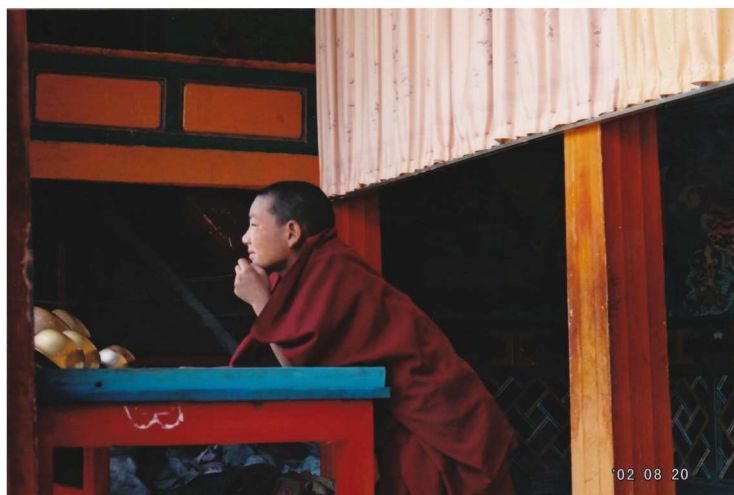
＜東竹林寺＞ 徳欽への道の途中



山の斜面に建つチベット教の大聖地、近隣も全く俗化されていない
歴史が長く蔵宝が多い、また生きた仏、活仏と呼ばれる僧侶が管理している



東竹林寺の全景



東竹林寺の活仏



チベット族の民家（豪華な家）



チベット族の民家の中庭

旅行記は会報36号（2002年10月）に載っています。